

仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日 令和6年1月30日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時00分から午後4時30分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

籠橋俊光、齋藤敦子、佐治ゆかり、佐藤憲子、高橋たくみ、伊達泰宗、長岡龍作、森美智子
※尾崎彰宏、鹿又喜隆委員は欠席。

4. 説明者の職及び氏名

館長＝今井吏、副館長＝樋口智之、庶務係長＝村上明日香、学芸企画室長＝酒井昌一郎、
学芸普及室長＝水野沙織、指導主事＝村上聡、学芸企画室主事＝寺澤慎吾、黒田風花
学芸企画室主任・記録＝菅原美咲

5. 議題及び報告並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

副会長と森委員とする。

(2) 報告事項

① 令和5年度事業報告

i 展示・公開(副館長報告)

「資料1」のとおり。

ii 教育・普及事業(学芸普及室長報告)

「資料2」のとおり。

[委員からの意見]

宮城県美術館では休館中の活動で高精細画像を活用し、東北工業大学の施設で展示等の普及活動を展開している。仙台市博物館で再開館後に始めるデジタル公開は多くの博物館で採用しているデータベースを用いるが、高精細な画像などの公開ではないと聞いた。それでは図録の写真と同じで、情報の発信レベルにとどまる。高精細な画像を通して感動を受けるようなデジタルも用意してほしい。実物を見てみたいと思うようなデジタルの活用も必要だと思う。

[委員からの意見]

博物館法の改正により、デジタル化の推進が明文化された。仙台市博物館では休館中とあわせてデジタル化を進めたことは評価できる。デジタル化には二つの戦略が考えられる。一つは現在博物館が進めているデータベースの整備とオンライン化によって研究者や一般の方に情報公開を行うこと。それによって、研究者など利用者からの視点が博物館に刺激を与えてくれる。もう一つは、コアとなる資料を厳選してピンポイントで高精細画像などを用意するもの。宮城県美術館で進めているのは後者で、実物では見せられない部分を高精細でフォローす

るという戦略をもってやっている。博物館もこちらを意識して進めることは必要である。

〔事務局からの回答〕

デジタル化には二つの方向性があるとの委員からのお話のように、今回は多くの情報を公開することを第一段階とし、今後はもう一つの高精細画像などの利用も第二段階として進めていきたい。

〔委員からの意見〕

8K 映像によって文化財を見せる試みは海外ではゲルニカが有名だが、国内の仏像に関しては法隆寺の救世観音、百済観音などで試行されている。救世観音は実物は厨子に入っていて見られないものを間近で見られるという利点がある。また、中尊寺に関わる展覧会では金色堂を8K 画像で撮影した映像が導入されている。また、早稲田・東北・大阪・学習院大学など大学が共同で8K 画像を見ながら意見交換を行うという試みがあった。博物館でも協力を得てギャラリーなどで高精細画像を投影するなどの試みもできるのではないかと。1点豪華主義で何を選ぶかと同時にデータベースに多数のデータと小さくても画像があることはとても意義があるので、両戦略が立てられるとよい。

〔事務局からの回答〕

カメラメーカーなどとのデジタル技術を利用した新たな博物館のあり方についてはチャレンジしたい。

〔委員からの意見〕

実施している出前授業のプログラムで行った校種および資料をのせた内容以外でどのような内容を行っているか。

〔事務局からの回答〕

今年度は市内小学校 21 校、中学校(特別支援学校)2校で実施している。なお社会科のプログラムについては、「戊辰戦争 仙台藩と会津藩」を 10 校、「伊達政宗と仙台」を5校で実施した。図工美術科のプログラムについては「もんきりがたであそぼう」などを実施した。

〔委員からの意見〕

学校現場では、次年度の校外学習の計画は2月にはほぼ決める段階なので、博物館利用のための広報事業をこの時期に間に合うようにするとよいのではないかと。

〔事務局からの回答〕

本日1月 30 日から学校向け、一般向けの博物館見学の申し込み受付を開始した。広報についても力を入れていきたい。

② 再開館日程と広報展開について(副館長報告)

「資料3」のとおり。

〔委員からの意見〕

広報展開は企画展の内容で行うのか。博物館の改修工事は大きな変化で、博物館がどのように生まれ変わったかということを示すことは、これからの博物館の姿勢を示す上で大事である。それを打ち出すような広報もあってもよいのではないかと。その打ち出し方は展覧会の広報とは区別して、変わった部分をまとめるかたちで示すもの(フライヤー)が別にあったほうがよいと思う。

〔委員からの意見〕

改修前後の比較が大事。改修前後の映像も作成したということだが、展覧会の展示の中で同じ資料がよりよく見えるようになったことをPR するほうがよいのではないかと。

〔事務局からの回答〕

改修工事および展覧会の内容を含めてデザインの公募を行った。デザインおよび広報事業の選定を行い、展覧会の内容を中心に広報展開することにした。現在ポスターなどの印刷物の作成を進めているが、チラシの中には、改修で変わったことについて簡単に文章で入れる方向で進めている。

〔委員からの意見〕

文字でもよいが、一目でみてわかるような何かがあるとよい。

〔委員からの意見〕

広報物を校正段階で協議会委員が見る時間はとれないものか。協議会で意見をいう機会も大事なのではないか。

〔事務局からの回答〕

印刷物に盛り込めるかはスケジュール等もあり調整が必要である。今回は前回の協議会でのご意見を踏まえ、デザインおよび広報展開も含め専門の業者へ業務を委託することに力を注いだ。今後も広報展開については引き続きご意見をいただきたい。

(3)協議事項

① 特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」について(学芸企画室主事報告)

「資料4」のとおり

〔委員からの意見〕

想定入館者数はどのくらいか。

〔事務局からの回答〕

2万人程度を目標としている。

〔委員からの意見〕

4月の広報活動の中にこの展覧会も入るのか？

〔事務局からの回答〕

特別展は入らない。

〔委員からの意見〕

展覧会開催に伴い、天理大学に対して借用料や出品料が発生するのか。観覧料の扱いはどうなるのか。

〔事務局からの回答〕

本展覧会は、もともとは天理大学が企画したもので、資料の貸出料や写真の利用料は発生しない。観覧料も当館の収入になる。

〔委員からの意見〕

すでに岡山などに巡回しているが、仙台市博物館独自の展示構成の部分を組み込むということか。その場合、図録は新たにつくるのか。

〔事務局からの回答〕

博物館独自の部分は、当館所蔵の慶長遣欧使節に関する内容をこれまでの展示構成に追加して構成を組んでいる。ただし、新しい図録の作成予定はない。

〔委員からの意見〕

この展覧会は岡山など西日本で実施されているが、東北では仙台市博物館での実施となる。展覧会で対象としている時代は、日本では鎌倉時代後半、鎌倉文化が花開いた時期にあたる。また、元寇により鎌倉幕府も対外的

に意識が向いた時期になる。元寇の時は東国で神像を中心に信仰され、調伏祈祷などを行った。こうした東国の武家政権の対外意識を踏まえることは展覧会を東北で開催するにあたっては意義があるのではないか。

〔委員からの意見〕

仙台市博物館で開催する意味を明確にすることは重要である。

〔委員からの意見〕

令和6年度の展覧会すべてに第1弾、第2弾として再開館記念の冠はつけないのか。展示ケースが新しくなったからこそ見える新しい見方というのがここにも当てはまるのではないか。

〔委員からの意見〕

よい展示には語りが必要。そのあたりは委員の意見をもらおうとよい。

〔事務局からの回答〕

天理大学でこの展覧会を企画した際に、慶長遣欧使節関係の内容も盛り込んでいる。アマティの伊達政宗遣欧使節記のドイツ語版は現在は国内で天理大学と当館のみが所蔵していることなど、そうしたご縁もあって当館に展覧会の開催のお声がけをいただいた。

② 特別展「親鸞と東北地方の念仏(仮)」について(学芸企画室主事報告)

「資料5」のとおり

〔委員からの意見〕

主催の大塚工藝社は印刷関係の会社ではないか。他にマスコミはつくのか。

〔事務局からの回答〕

図録の製作だけでなく、展覧会のコーディネートも含めて行ってもらう。他のマスコミは入らない予定である。

〔委員からの意見〕

浄土真宗の展開ということで、浄土真宗には民俗的な行事の中に信仰を支えている形態もあると思う。そうした民俗的な部分やベースも含めて調査し、展示に反映する予定もあるか。

〔事務局からの回答〕

現在の信仰につながる民俗的な面は今回の展示に含めないが、そこに至る歴史的な経緯を含めて展示を行う予定である。

〔委員からの意見〕

この展覧会は仙台市博物館だけでの開催ということか。

〔事務局からの回答〕

仙台市博物館のみでの開催となる。

〔委員からの意見〕

出品予定になっている慕帰絵について、長い場面にわたって描かれている風景は松島と天橋立だけである。それは浄土真宗ではこの2カ所を大事にしていることを示している。仙台市博物館でこれを展示するのであれば、松島が浄土真宗にとってどのように重要だったかという視点も大切である。

〔事務局からの回答〕

タイトルが暗い感じがする。もう少し検討してもよいのではないか。再開館の第3弾の特別展として、同じ内容にしてももう少し表現を検討してはどうか。

〔事務局からの回答〕

現在は仮題で検討中であり、引き続き検討していきたい。

4 その他

(1)次回開催日程について

「資料6」のとおり。